

## 「チームいいなん」の挑戦 ～未来を切り拓く“地域に根ざした人材”育成～

## &lt; 研究開発の背景 &gt;

- ・飯南高校や連携中学校が所在する松阪市の飯南・飯高地域は、近年急激に人口減少が進行
- ・地域住民と学生の交流機会が減少 & 文化・産業等の地域資源の継承が困難  
⇒地域の活力低下 & 学校の活力低下
- ↓ ↓ ↓
- ・地域を若者で盛り上げようとする活動「道の駅コラボプロジェクト」（有志の課外活動）を開始（H30～ 連携中学校とも協働）
- ・地域へ飛び出した活動が地域活性化や生徒の成長に有意義 ⇒地域からの期待の高まり
- ↓ ↓ ↓
- ・地域を学び場とした探究活動（地域課題解決型のキャリア教育）の実践を通じて、自ら考え挑戦し、多様な価値観を持つ人々と対話・協働しながら、地域への愛着を持って地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことができる、地域に根ざした人材を育成
- ・地域人材に必要な資質・能力として「対話力・追究力・創造力・発信力」を育成

## &lt; 令和3年度の目標、取組状況 &gt;

## 1. 総合学科の柱に位置付けている3科目の再構築

## ①「産業社会と人間」（総合学科必修科目）の確立（1年）

- ⇒2回のフィールドワークで、地域を学び場とした活動を自ら模索・提案する
- ⇒魅力マップを作り、地域と自己の適性や在り方・生き方との比較を通じた「かけ算プロジェクト」（活動成果発表会）を行った

## ②「キャリアデザイン」（学校設定科目）の確立（2年）

- ⇒コンソーシアムとの協働により、昨年に続きコロナ禍でも実施したキャリアインターンシップ、商工会議所と連携した「高校生と地元企業との交流会」を開催

③「いいなんゼミ」（総合的な探究の時間）の確立（3年）令和3年度の重点

- ⇒地域を題材に課題研究に取り組む生徒をゼミ内で協働させながら探究活動を展開
- ⇒林業を行う団体と木工キットを共同作成して小学校へ寄贈、天文台施設の関係者と観望会を共同開催、地域を知るハイキングイベントを企画等が代表的な取組

## 2. 4系列の特色を活かした地域貢献のための学習活動の試行

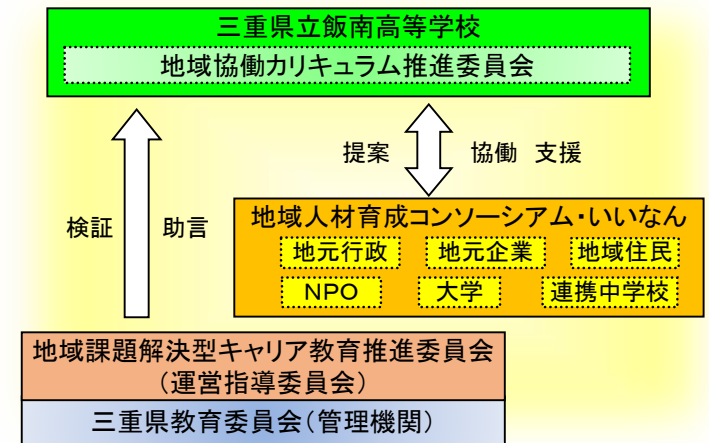
- ⇒【郷土・環境系列】花卉の知識を深め、花壇の共同管理等の地域への貢献活動
- ⇒【介護福祉系列】看板プロジェクトで地元企業の看板を作成
- ⇒【コンピュータ系列】小学生を対象としたプログラミング体験教室を実施  
(市教委との協働)

- ⇒【総合進学系列】トークフォークダンスを開催し、実社会と学問との学びの連動

## 3. 探究的な学びを進める授業改善

- ⇒オンラインを利用した外部講師による研修会（生徒の対話を促す授業、ICT活用等）を実施

## &lt; 研究開発の実施体制 &gt;



## &lt; 主な成果と課題 &gt;

2学期末に実施した3学年生徒への自己評価アンケートでは、1学年の1学期より対話力58.2%→85.3%、追究力59.5→90.7%、創造力65.8%→78.7%、発信41.3→84.0%と飛躍的に上昇し、地域を学び場とした活動を通じて、力が身に付いたと生徒自身が実感できている

1年次「産業社会と人間」では、フィールドワーク先の選択から連絡まで、すべて生徒自身が行うことで、より主体的な学びが形成され、また地域においても根付いた活動となってきた

地域を題材として探究活動を行う際には、今あるものからより良いものを考えていく視点が大切であることを、今後も生徒や教員が共通理解としていきたい

4系列の学習活動において、昨年度の地域の学びが連動して学びの成果を地域へ還元していく形も起こり、また生徒の学びがより多様になったことで、自然と教科横断的な学びとなって生徒が成長していった

3年次「いいなんゼミ」については、1年次フィールドワークの体験からの連動した学びや2年間で深めてきた系列の学びがつながり、3年間地域の伴走者と関わることで、より地域をよくしていこうと自走していく姿がみられた